



平成27年3月27日

各 位

会 社 名 東京急行電鉄株式会社  
代表者名 取締役社長 野本 弘文  
(コード番号 9005 東証第1部)  
問 合 せ 先 財務戦略室 主計部  
主計課長 小田 克  
(TEL 03-3477-6168)

### 東京急行電鉄中期3か年経営計画について

当社は、平成27年3月27日開催の取締役会において、2015年度（平成27年度）を初年度とする「中期3か年経営計画（計画年度：2015年度～2017年度）」を策定しましたので、お知らせいたします。

以 上

- ※ なお、詳細につきましては、添付資料をご参照ください。
- ※ 同日、機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定であります。使用する資料につきましては、開催後、速やかに当社ホームページに掲載するとともに、TDnetで開示する予定であります。

2015年3月27日

# 東京急行電鉄「中期3か年経営計画」を策定 “STEP TO THE NEXT STAGE”

東京急行電鉄株式会社

当社は、このたび2015年度を初年度とする中期3か年経営計画(計画年度:2015年度~2017年度、以下、本計画)を策定しました。当社および連結子会社では、2012年4月に現行の中期3か年経営計画をスタートさせ、東横線・東京メトロ副都心線の相互直通運転をはじめとする鉄道ネットワークの整備や渋谷、二子玉川の沿線開発などの重点施策に鋭意取り組み、最終年度の本年3月期には目標経営指標を概ね達成する見込みです。

また、この間に経営環境は大きく変化し、東京オリンピック・パラリンピック開催決定などを受け、東急グループにも新たな事業機会が出現していることに加え、これまでの経営計画を経て、財務健全性にも一定の目途がついたことから、創立100周年となる2022年を見据え、新たな成長に向けた準備を進めてきました。

本計画期間は、渋谷再開発など大型開発プロジェクト完成までのステップ期間と位置づけ、長期的な視点での事業戦略や成長施策を実行していくことから、本計画の名称を「STEP TO THE NEXT STAGE」と決めました。

本計画では、将来の大きな飛躍に向け、財務健全性を確保しつつ、既存事業・プロジェクトの強化、当社の強みを生かすことのできる新規領域への積極的進出や成長領域への重点投資を実施し、収益性、効率性双方の向上を実現していきます。

東京急行電鉄中期3か年経営計画の概要は別紙の通りです。

以 上

(参考)この資料は本日、兜倶楽部、国土交通記者会、ときわクラブにお届けしています。

本リリースに関するお問い合わせ先

東京急行電鉄株式会社 社長室 広報部 広報課 森田・柳澤・山本・長谷 電話:03-3477-6086

## 【別紙】

### 中期3か年経営計画の概要

#### 1. 実施期間

2015年度を初年度とする3か年(2015年度～2017年度)

#### 2. 基本方針

「次なる飛躍へのステップとして、沿線を深耕するとともに、新たな成長にチャレンジする」

#### 3. 重点施策

##### (1) 安心感と満足感のより一層の充実

ホームや踏切などの安全性を高める設備の充実や、事故・異常時における対応力強化を通じ、更に安心で安全な鉄道を追求するとともに、交通・リテール・生活サービスを一体的に展開させ、広域の移動を促進、街や地域を活性化させる。

##### (2) 沿線開発と不動産事業の更なる推進

渋谷再開発に加え、駅周辺における総合開発を引き続き推進するとともに、沿線資産活用コンサルティング事業の強化や投資循環型事業モデルによる賃貸事業の更なる拡充を図る。

##### (3) ライフスタイル&ワークスタイル・イノベーションの推進

###### ① ライフスタイル・イノベーション

新たに取り組む電力小売事業を含めた東急グループのさまざまな家ナカサービスを便利に、お得に利用できるよう「バンドル化」する。また、鉄道やバスで貯まる「交通ポイント」など、TOKYUポイントに新たなサービスを導入し、お客さまに新たな生活価値を提供する。

###### ② ワークスタイル・イノベーション

当社が関わる開発プロジェクトにおいて創造・交流施設を整備し、多様なワークスタイルへの対応をサポートすると同時に、当社グループ内におけるダイバーシティマネジメントや、社内起業家育成制度などを推進し、社員がいきいきと輝ける環境づくりを実現する。

##### (4) グループ経営資源を活かした新たな取り組み

###### ① リテール事業の推進体制強化

各連結リテール事業を束ねる「リテール事業部」を設置し、強力なヘッドクォーター機能を置くことにより、グループとしての総合力を発揮することのできる体制を構築する。

###### ② インバウンドへの取り組み

羽田空港アクセスの向上や観光・貸切バス網の拡充、免税・多言語対応、観光コーディネーター機能の強化など、インバウンド旅客を渋谷や沿線地域、国内グループ施設へ誘致する環境を整備する。

###### ③ ホテル事業

お客さま視点でホテルブランドを再編するとともに、インバウンド需要を見据え、大都市や観光拠点での新規出店を推進する。

###### ④ 海外展開

東南アジアにおける経済成長力を取り込むため、これまで国内外の事業から培ったノウハウを活用し、現地パートナーとの連携などによる事業推進・事業機会の拡大を図る。

#### 4. 全社経営指標

経営指標	2014年度予想	2017年度計画
東急EBITDA※	1,580億円	1,690億円
営業利益	700億円	750億円
有利子負債／東急EBITDA倍率	5.9倍	5.8倍

※ 営業利益＋減価償却費＋のれん償却額＋固定資産除却費＋受取利息配当＋持分法投資損益

(参考指標)

自己資本利益率(ROE)	7.3%	8.0%
--------------	------	------

#### 5. 参考資料

別冊「中期3か年経営計画 “STEP TO THE NEXT STAGE”」

以 上

# 中期3か年経営計画

(2015年度-2017年度)

## “STEP TO THE NEXT STAGE”

2015年3月27日

東京急行電鉄株式会社

(9005)

S H I B U Y A

# 目次

I. 前回経営計画の総括	2
II. 長期ビジョン・長期経営戦略	4
III. 新中期経営計画の基本方針	7
IV. 重点施策ごとの取り組み事項	10
V. 数値計画	23

## 「将来の見通しについて」

ここに掲載されている情報のうち、過去の歴史的事実以外のものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた、当社の経営者の判断に基づいております。従って、実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますことをご了承ください。

# I . 前回経営計画の総括

# 前回経営計画の総括

## 2012-2014年度トピックス

### 鉄道ネットワークの整備

- 2013年3月 東横線-東京メトロ副都心線の相互直通運転開始
- 2014年3月 東急線の年間輸送人員が11億人を突破  
→ 2012-2014年度に輸送人員は **+5.0%** 増加見込み

### 鉄道安全対策の継続

2012-2014年度累計で547億円の安全投資を実施

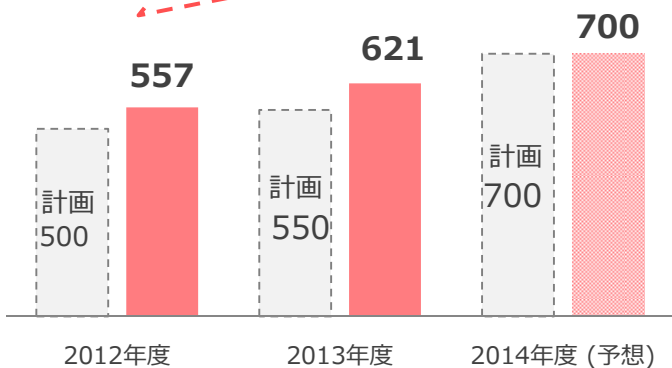
### 渋谷、二子玉川などの沿線開発の推進

- 2012年4月 渋谷ヒカリエ 開業
- 2013年4月 武蔵小杉東急スクエア 開業
- 2013年10月 あざみ野ガーデンズ 開業
- 2015年4月 二子玉川ライズ2期 開業 (予定)

## 数値計画の推移

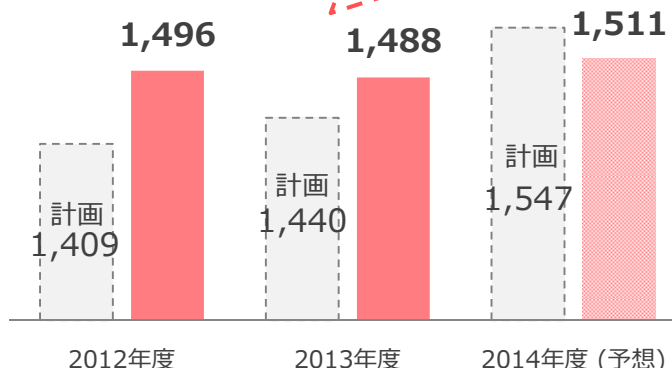
### 営業利益

3か年にわたって、計画利益を達成する見込み



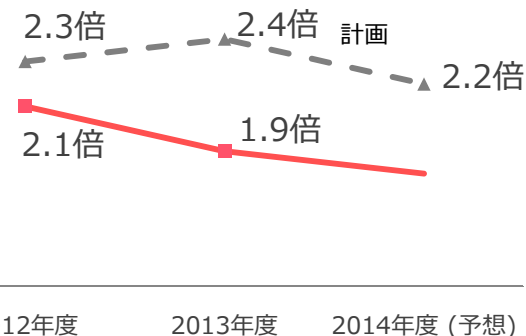
### 東急EBITDA

3か年合計で達成見込み



### D/Eレシオ

計画をすでに達成



(※) 東急EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 固定資産除却費 + のれん償却費





## Ⅱ．長期ビジョン・長期経営戦略

# 当社グループを取り巻く事業環境の変化

## 1. 人口動態の変化

人口減少、少子化・高齢化  
東京への一極集中の継続  
居住地都心回帰の動き

## 2. 消費行動・顧客接点の変化

顧客属性・生活スタイルの変化  
スマート・デバイスの普及  
ビッグデータ利活用の拡大

## 3. 新たな事業機会の出現

東京都心へのインフラ整備の集中  
東京オリンピック・パラリンピック／特区  
羽田空港国際化・インバウンド誘致  
環境・エネルギー意識の高まり、制度改革

## 4. グローバルレベルでの競争

国内市場の縮小  
アジア市場の急成長  
国際都市間競争の激化

# 長期ビジョン・長期経営戦略

※2022年は当社創立100周年

## ■ 長期ビジョン（2022年にありたい姿）

東急沿線が『選ばれる沿線』であり続ける

日本一住みたい沿線	東急沿線
日本一訪れたい街	渋谷
日本一働きたい街	二子玉川

『ひとつの東急』として、強い企業集団を形成する

## ■ 長期経営戦略

長期ビジョンの実現と、持続的な成長に向けた全体戦略を策定

長期的方向性

健全性の回復から、規模の拡大・効率の向上へ

全体戦略

### 沿線のバリューアップ

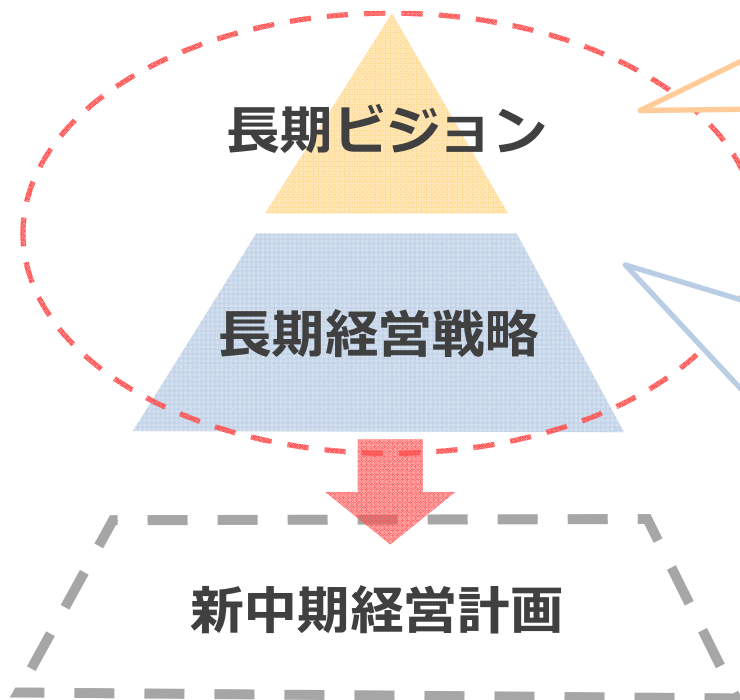
- ・時代を先取りする街づくり
- ・地域特性をふまえたきめ細かい街づくり
- ・多様化したライフ&ワークスタイルに対応した街づくり

### お客さまを軸とした東急シェアの拡大

- ・TOKYUポイントの基盤拡大
- ・お客さまの東急利用率の向上 など

### 沿線外展開・新規事業展開

- ・新規領域への積極的進出 など



## Ⅲ. 新中期経営計画の基本方針

# 新中期経営計画の位置づけ

2010年度 東急キャピトルタワー開業  
たまプラーザテラスグランドオープン  
二子玉川再開発1期開業

2012年度 渋谷ヒカリエ開業  
東横線 東京メトロ副都心線相互直通運転開始

2015年度 二子玉川再開発2期開業

2017年度 渋谷宮下町計画開業

2018年度 渋谷駅南街区開業

2019年度 相鉄・東急直通線開業

2020年 渋谷駅街区・東棟開業  
東京オリンピック・パラリンピック  
ホームドア設置完了  
(東横線・田園都市線・大井町線)

2022年 当社創立100周年

2027年度 渋谷駅街区 全体開業

*HOP!*

中期経営計画  
2012-2014

*STEP!*

"STEP TO THE NEXT STAGE"

新中期経営計画  
2015-2017

*JUMP!*

- 大型開発プロジェクトの完成までのステップ期間
- 長期的視点での事業戦略や成長施策を打ち出し、実行すべき期間
- 将来の大きな飛躍に向け、既存プロジェクトを着実に進めると同時に、強みを活かすことができる新規領域に積極進出し、成長領域へ重点投資

## “STEP TO THE NEXT STAGE”

### 基本方針

次なる飛躍へのステップとして、  
沿線を深耕するとともに、新たな成長にチャレンジする

### 重点施策

- ① 安心感と満足感のより一層の充実
- ② 沿線開発と不動産事業の更なる推進
- ③ ライフスタイル&ワークスタイル・イノベーションの推進
- ④ グループの経営資源を活かした新たな取り組み

## IV. 重点施策ごとの取り組み事項

## さらに安心で安全な鉄道の追求

- ・ 少子化・高齢化等の社会環境変化を見据えたホームや踏切における安全対策の実施
- ・ 大規模地震や自然災害の影響拡大に備えた安全対策の深化

### 安全性を高める施設の充実

#### ■ ホームドア整備

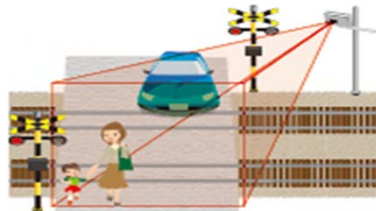
2020年を目標に東横線・田園都市線・大井町線の全64駅に整備



ホームドア整備

#### ■ 検知装置の設置

全踏切に高機能な検知装置を設置し、更なる安全性の向上



レーザー光による障害物検知のイメージ

#### ■ 減災対策工事の推進

異常気象や大規模地震を想定した設計基準の見直しと設備への反映



耐雪基準の強化

### 安全体制の強化

#### ■ 事故の未然防止

過去の重大事故事例や、様々な事故の想定と個々の現場の状況に基づく、事故防止のための具体策を策定



避難誘導訓練

#### ■ 異常時への対応力

異常気象や様々なトラブル事象への対応力を強化

#### ■ 迅速な情報提供

事故や列車運行情報を様々な媒体で迅速に発信



お知らせモニター



## 移動を軸とした暮らしを豊かにするサービスの展開

- ・ 交通利便性を高め、あわせて駅機能向上を図り、広域の人の移動を促進
- ・ 交通、リテール、生活サービスを一体的に展開した新たな価値を提供して街・地域を活性化

バス・自転車利用者の利便性を向上（駐輪場整備等）



### 交通利便性の向上

バスなどへの乗り換えやネットワークの充実により公共交通として利便性を向上

ネットワークの充実

2019年度  
相鉄・東急直通線開業予定



新空港線計画

企画券等

### 観光需要創出・来街促進

相互直通運転各沿線、外国人旅行者など、広域移動を促進



トライアングル  
チケット



横浜中華街旅  
グルメきっぷ

### 駅の生活機能向上

駅の開発や、様々なサービスにより生活品質を向上

駅の拠点開発



エトモ市が尾イメージ

## 渋谷再開発の推進①



渋谷駅街区・東棟  
2020年開業予定



渋谷宮下町計画  
2017年度開業予定



渋谷駅南街区計画  
2018年度開業予定

道玄坂街区<sup>※1</sup>  
2018年度開業予定

渋谷駅桜丘口地区<sup>※2</sup>  
2020年頃開業予定

- ※1 事業主体は道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合  
(事業協力者：東急不動産)
- ※2 事業主体は渋谷駅桜丘口地区再開発組合  
(事業協力者：東急不動産)

渋谷ヒカリエ

渋谷駅

地図：Copyright 国際航業-住友電工

## 渋谷再開発の推進②



ICT&クリエイティブ産業の集積と  
産業生態系の確立



グローバルに人々を魅了する  
「SHIBUYA LIFE STYLE」  
の創造・発信



世界が注目するコンテンツと、  
インタラクティブに表現・発信する  
メディア・場の拡充

## エンタテインメントシティ SHIBUYA

- 誰もが表現・発信・挑戦できる街
- カオスの中からムーブメントが生まれる街
- そのスタイルに世界が注目し憧れる街



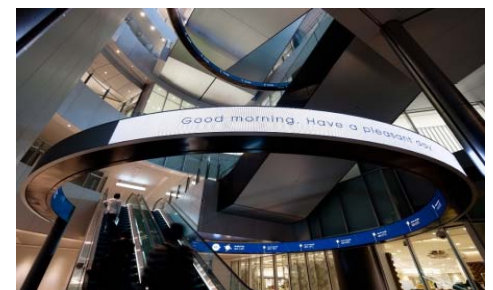
「日本一訪れたい街 渋谷」へ



文化・コラボレーション・創造的な  
環境の創出



世界中から人を惹きつける  
「アーバンパーク」の実現



「日本一訪れたい街」に  
相応しい都市インフラの整備

# 重点施策 ②

# 沿線開発と不動産事業の更なる推進

## 沿線駅周辺における総合開発の推進

地元・行政などと連携し、地域特性を踏まえた複合開発の推進

Wellness & Walkable  
Intelligence & ICT  
WISE CITY  
ワイスシティ  
Smart, Sustainable & Safety  
Ecology, Energy & Economy

### ⑭ 次世代郊外まちづくり

横浜市と連携し、モデル地区内の企業社宅跡地を活用した「コミュニティ・リビング」の取り組みに着手



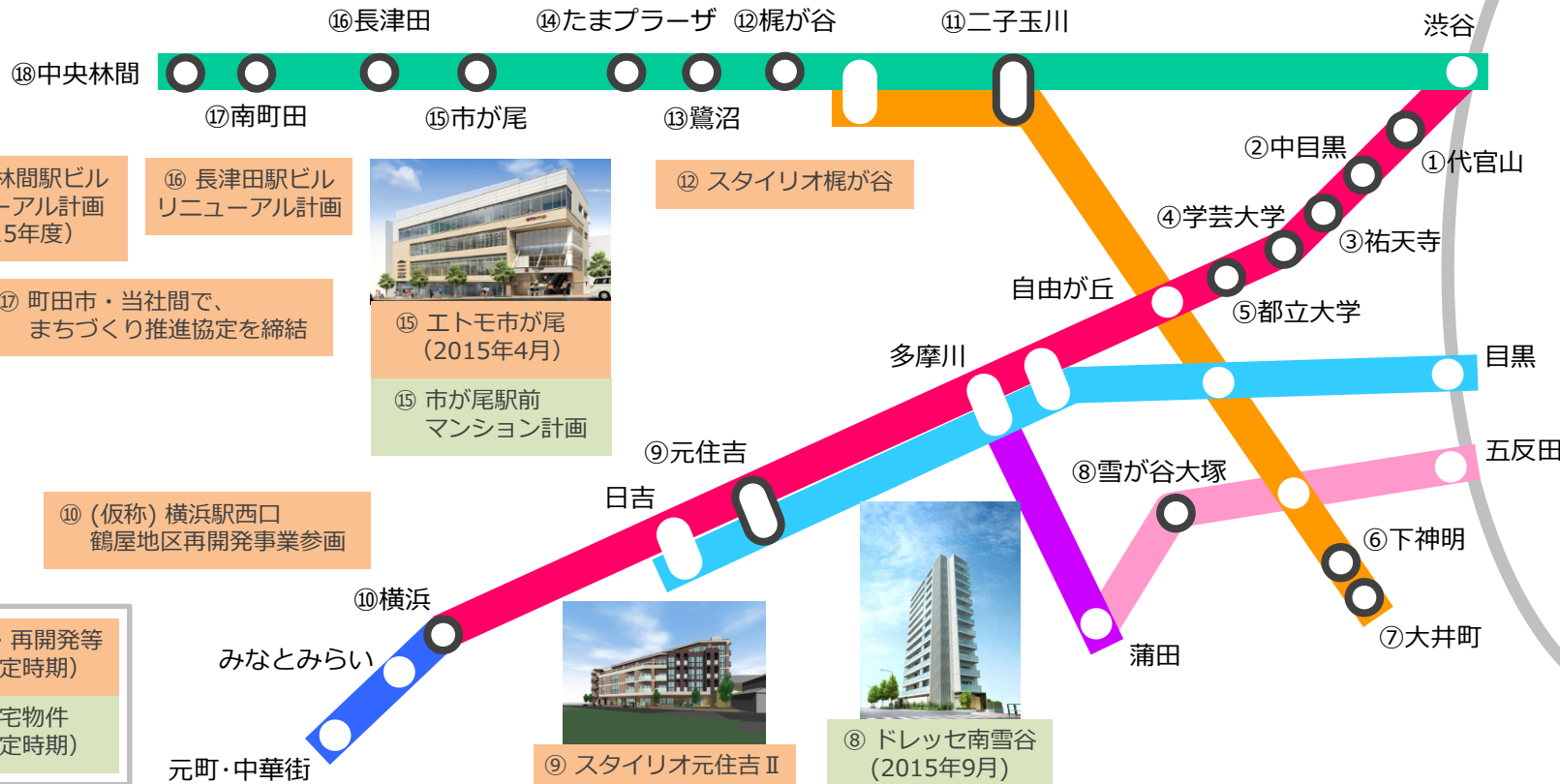
※一部7月開業予定



② 中目黒高架下開発計画  
③ 祐天寺駅周辺開発計画



⑥ 大井町～下神明高架下開発計画  
⑦ 大井町駅ビルリニューアル計画



⑬ 中央林間駅ビルリニューアル計画 (2015年度)

⑭ 長津田駅ビルリニューアル計画



⑮ 市が尾駅前マンション計画

⑫ スタイリオ梶が谷

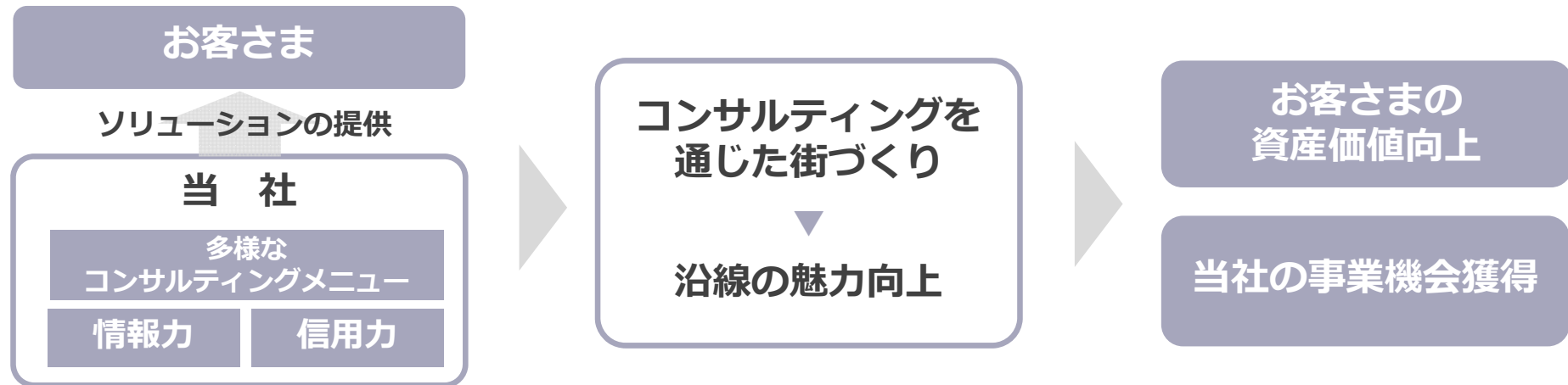
⑰ 町田市・当社間で、まちづくり推進協定を締結

⑩ (仮称) 横浜駅西口鶴屋地区再開発事業参画



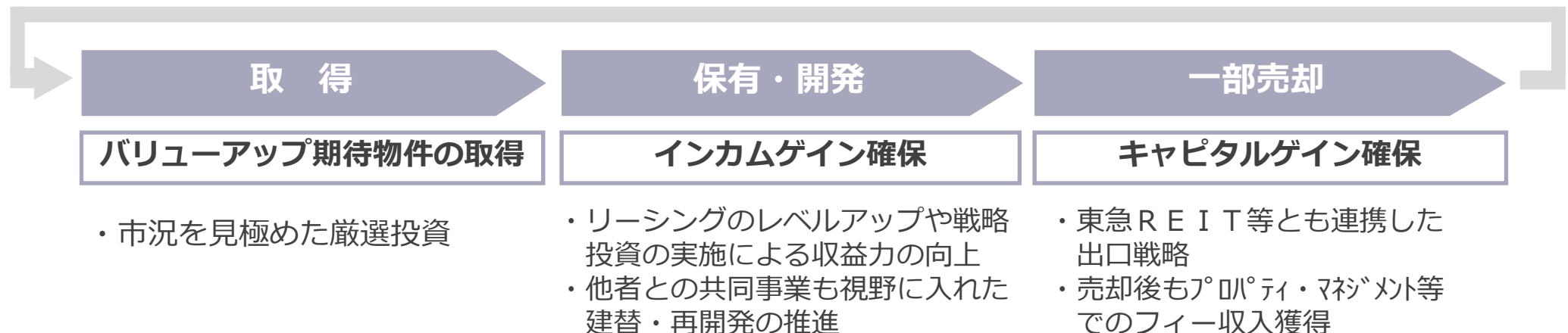
賃貸物件・再開発等 (開業予定時期)  
分譲住宅物件 (引渡予定時期)

## 沿線資産活用コンサルティング事業の強化



## 不動産賃貸事業の更なる拡充

<不動産賃貸事業の投資循環型事業モデル>



# 重点施策 ③

# ライフスタイル & ワークスタイル・イノベーションの推進

## ライフスタイル・イノベーション

電力小売り EMS 東急ベル インターネット スマートホーム 高齢者見守りサービス ケーブルテレビ 電話 セキュリティ・駆けつけサービス 街なかの店舗・サービス

**TOKYU POINT**

オートチャージ 交通

**家ナカサービスバンドル化**

電力を加えた家ナカ各サービスを、更に便利・お得に利用できるよう組み合わせ（バンドル化）

鉄道のお客さまにとっての魅力を向上する「交通ポイント」などTOKYUポイントに様々な新サービスを導入

東急の様々な商品・サービスをお客さまが便利に、スムーズに、心地よく受け取ることができる仕組みを構築し、お客さまに新たな生活価値を提供



## ワークスタイル・イノベーション

### 成長産業サポート

- 国際競争力が高い産業・人材の育成  
(渋谷駅南街区における育成・創造施設整備)
- 多様なワークスタイルへの対応  
(渋谷ヒカリエや二子玉川ライズ、  
渋谷宮下町計画における交流施設整備)



渋谷ヒカリエ  
(Creative Lounge MOV)



二子玉川ライズ  
(カタリストBA)

## 社員がいきいきと輝ける環境づくり

### ダイバーシティマネジメント

- 女性活躍推進 (2020年までに女性管理職目標40名)
- 仕事と育児・介護が両立できる環境整備
- 在宅勤務の拡充
- 東急グループ休日事業所内保育サービス

### なでしこ銘柄3年連続選定



※3年連続選定は、東京証券取引所上場企業のうち6社のみ

### 従業員の意欲・働きがい向上

- 社内起業家育成制度創設
- 健康経営への取り組み  
⇒ 「健康経営銘柄」選定

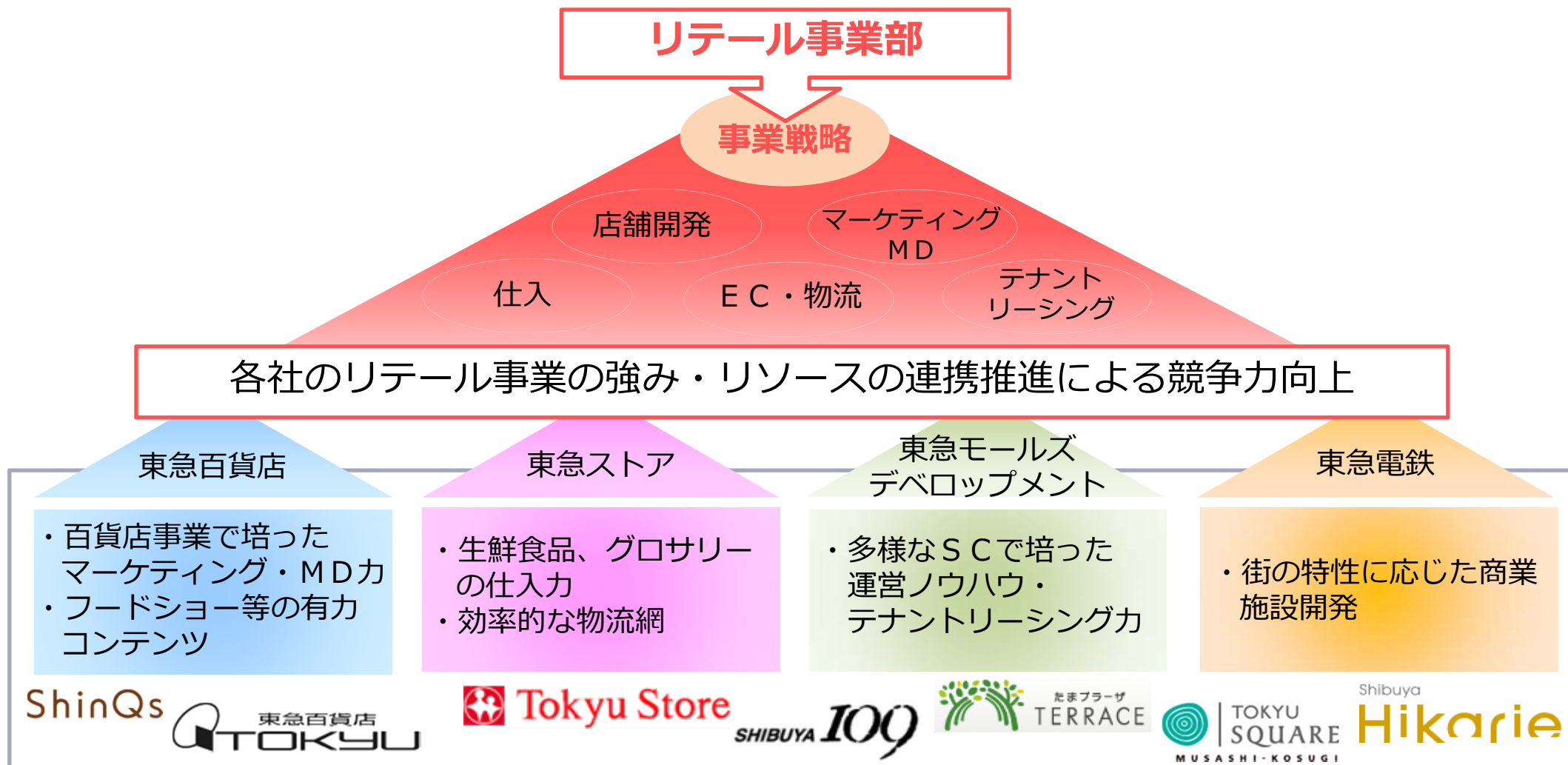


### 連結経営視点での人材マネジメント推進

- 人材情報の見える化によるグループワイドでの最適配置
- 経営者候補人材の計画的な育成・配置
- グループの人事機能集約による運用効率化

## リテール事業の推進体制強化

各連結リテール事業を束ねる「リテール事業部」を設置し、強力なヘッドクォーター機能を置くことで、グループとしての総合力を発揮できる体制を構築



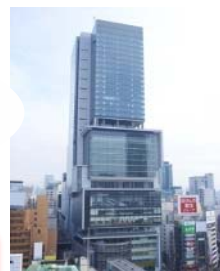


## インバウンドへの取り組み

インバウンド旅客を沿線や国内グループ施設へ誘致する環境を整備

### 渋谷への インバウンド誘客強化

- 羽田空港アクセスの向上  
(新空港線・バス網拡充)
- 定期観光・貸切バス誘致



渋谷ヒカリエ



### 国内グループ施設への誘致

- 観光コーディネート（魅力ある商品企画、販売チャネル開拓）機能の強化
- ホテル、商業施設等への送客

### 沿線地域への誘致、 受入れ体制充実

- FREE Wi-Fiの整備
- 免税対応の拡充
- 多言語対応の強化



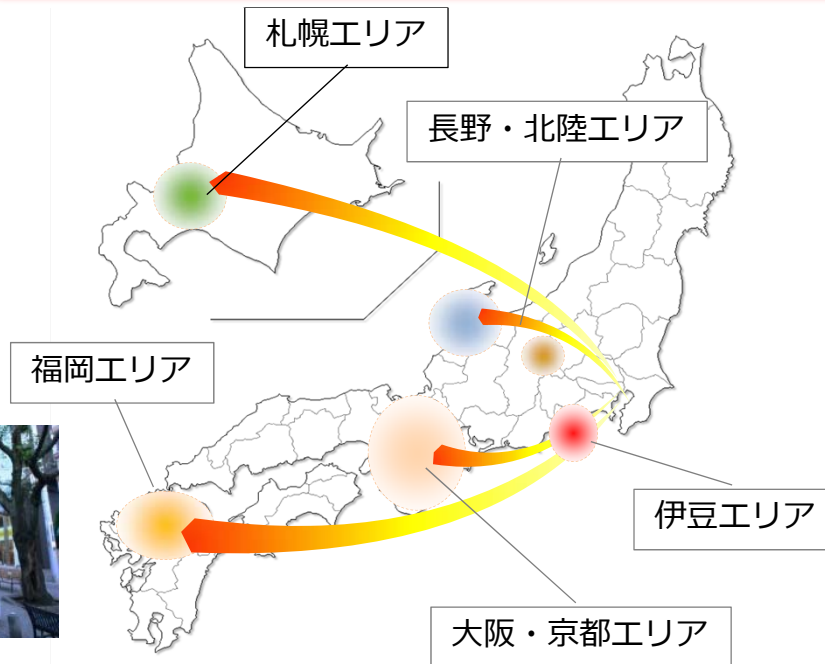
横浜みなとみらい2.1



二子玉川



自由が丘



## ホテル事業の取り組み

### 【ブランド戦略】

お客さま視点で3つのブランドに再編するとともに既存施設の改修やサービスの向上により、ブランド価値を高める

2015年3月まで



華やかで品格のある成熟のホスピタリティ

2015年4月以降



ラグジュアリー



上質で洗練されたくつろぎのひととき



シティ



飾らない自然な居心地



ミドルクラス

### 【出店戦略】

インバウンド需要を見据え  
大都市や観光拠点での出店を推進



The Park Front Hotel at USJイメージ

#### 決定している出店計画

- 2015.7 二子玉川エクセルホテル東急
- 2015.8 The Park Front Hotel at USJ



二子玉川エクセルホテル東急イメージ

### 【インバウンド戦略】

欧米やアジアからのインバウンド集客に向け  
海外でのブランド認知を向上（海外ホテルとの提携等）

#### 東急ホテルズの強み

ラグジュアリーからミドルクラスまで様々なサービスを提供  
日本全国の主要都市でホテルを展開

## 海外展開

【国内外の事業から培ったノウハウの活用】

### 【タイ・シラチャ】

日系企業集積エリアにおける  
日本人向け賃貸住宅事業



### 【タイ・バンコク】

「バンコク東急百貨店  
パラダイスパーク店」の出店



### 【ベトナム・ビンズン】

ビンズン新都市における  
都市開発事業



### 【中国・武漢】

ニュービーグループとの  
合併によるコンサルティング事業  
(東急百貨店)



### 【中国・香港】

大型複合商業施設「ハーバーシ  
ティ」へ「SHIBUYA109」を  
海外初出店 (2015年秋開業予定)

### 【オーストラリア・ ヤンチェップ】

パース近郊における  
都市開発事業



- 東南アジアにおける経済成長力の取り込み
- 現地パートナーとの連携等による事業推進・事業機会の拡大

# V. 数值計画

# 目標指標

## 全社経営指標

経営指標	2014年度 予 想	2017年度 計 画
東急EBITDA (※)	1,580 億円	1,690 億円
営業利益	700 億円	750 億円
有利子負債 / 東急EBITDA倍率	5.9 倍	5.8 倍

(※) 東急EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 固定資産除却費 + のれん償却費 + 受取利息配当 + 持分法投資損益

## 参考指標

ROE	7.3 %	8.0 %
-----	-------	-------

# 長期経営戦略の目標指標（2022年度）

目標指標	水準
東急EBITDA (※)	2,000 億円
営業利益	1,000 億円
有利子負債 / 東急EBITDA倍率	5 倍台

(※) 東急EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 固定資産除却費 + のれん償却費 + 受取利息配当 + 持分法投資損益